

2016.4.26～27 熊本地震被災地訪問 三村報告

(西澤信雄、幸山智子、幸山昌生、三村堅一)

4月26日(火)

◎美里 RQ九州本部事務局

伊澤さん、濱田さん(お二人とも SN 会員)と情報交換。日本協会募金、ボランティア受け入れについて。

・キャンピングカー10台来る予定。ボラの宿泊場所として使う予定。数十人は泊まれる。キャンピングカーだったら現場に出かけてそのまま宿泊できる。

濱田:ボラの仕事は、家の片づけ、援農になるのでは。

伊澤:城南町の土鹿野(はしかの)、状況が大変だが支援が入っていないという情報あり。見落とされている場所の情報を集めている。

濱田:復興ボラ、体験と結びつけてよそから体験ツアーできないかと考えている。

※日本協会と協力していくことの確認ができた。具体はまだ。



◎御船町 グリーンヒルみふね

物資集積場所にもなっている。日本協会からの紙おむつと消臭剤を提供。必要な所で使ってもらう。

今のグリーンヒルで必要なもの:高齢者の運動不足を解消するためのお手伝い(資格不要)

ボラ受け入れ:泊まれる室内スペースあり、外でテントも張れる。寝具食料は持参。



◎城南町 土鹿野 公民館

公民館に避難していたが、家に戻った人も多い。被害が大きい人が少し残っている。

話を聞いた女性:自分たちで何とかやっていける。行政の支援は入っている。



◎御船町 小坂小学校



物資はたくさんある。避難所の管理は美里町から派遣された若い役場職員がおこなっている。

給水場所になっていて、鹿児島から給水車がきている。

職員：柑橘類があればうれしい。前にもらった時に人気だった。

○山暮らしカフェに戻って、昼食と物資の補給

◎智子さんのお兄さん情報で行った場所（自宅にいるが子どもがいて買い物困難）

レトルト食品、缶詰提供。



◎その近くでガス屋さんのまわりで一緒に集まっている場所

レトルト食品、缶詰、ウェットティッシュ提供。



◎益城町の被害のひどい所

家の片づけをしていた人が、「物資があるなら、公民館で降ろして」ということだったので、公民館にお菓子、ウェットティッシュ、お茶類を提供



◎益城町 総合体育館・陸上競技場（指定避難所）



昼間は仕事で移動する車の場所取りで、様々なものを置いておく。



自衛隊の風呂

指定避難所の様子を見た。支援物資はいっぱいあった。この日は久留米ラーメンの炊き出しもあったようだ。

◎嘉島町 嘉島東小学校 宮地元さん

学校の敷地内にある地域の公民館的場所が避難所の拠点。物資、炊き出しあり。医療スペースや具合の悪い高齢者に対応できる畳の部屋あり。

元さんの体験活動ネットワークで来たテントが、50張りくらいグラウンドに張られている。

拠点施設は学校とは関係ないようだが、グラウンドは学校が始まる時に課題。

オープンテントで受付、外来者対応機能もあり。元さんは地震のあと、ずっといる。今後もいると言っている。元さん：地震直後は400人くらい避難。今は150～200人くらい。



◎御船町 小坂小学校

ジュシー（晩柑）を届けて、お茶を振る舞った。高齢者10人くらい。

支援物資でペットボトルのお茶は来ているが、冷たいまま、紙コップで飲む生活。

温かいお茶は地震が起こって初めてと、涙を浮かべて喜



ばれた。1時間くらい話をした。

体育館に泊まっているのは60人くらい。昼間は高齢者を中心に10人くらい。まわりで車中泊している人数は分からない。

サカモトキヨコさん：現場の責任者のような人。60歳くらい。涙流して「おいしい」と言っていた。地震で、大切にしていた急須や茶碗も割れてしまったとのこと。

○山暮らしカフェで夜、話したこと

西澤：小坂小学校でお茶の振る舞いをしたら、とても喜んでもらえた。やる意味がある。日本協会も応援したい。お茶っこ広場の経験から、お茶を入れる道具（湯呑み、急須、竹かごなど）やお茶を揃えるのは、募金でできるのではないかな。募金の使い道では、ネイチャーゲームショップで扱っている大きな黒い布や旗もあるのではないかな。

昌生：自分のふるさとの有田で、この活動のための湯呑みをつくることも考えられる。

智子：グッズで万華鏡もあると子どもと一緒に楽しめる。

昌生：シェアリングネイチャーカフェという名称は使いたい。

元さんは、みんなでお茶を飲むことを地元では「こびる」と言うと言っていた。使いたい。

※「シェアリングネイチャーカフェ・こびる」をこの活動のとりあえずの仮称とする。

東北のお茶っこ広場のようにならしていきましょう。

間所（まどころ）地区のように、自然から食べ物が得られ、仲間がいる、何があっても安心して暮らしていける暮らし方も伝えましょう。

そのために、

- ・幸山さんの他に、動くチームをつくりたい。取りあえず、被害の少ない地域から。
- ・やってみたい人がいれば、幸山さんとまずは一緒に行って、やり方を体験する。

4月27日（水）

◎御船町の山の奥の奥 間所（まどころ）地区

堆肥小屋に集まっている。昔は牛を飼っていたが、今はいないので、小屋が空いていた。避難所として活用。行った時は8人くらいいた。デイサービス？に行っている人も。

幸山さんがお茶の振る舞い。一服一銭の説明もした。山形の乃し梅と泉のイタドリのきんぴらをお茶請けに。サトガラ（イタドリ）は間所では食べない。



食料は、役場が昼と夜は届けている。その日は、昼食としてカップ麺とおやつ。何が来るか分からない。前の日の夕食は弁当。パンの時もある。

自分たちでちょっとしたおかずなどガスで調理している。

水和え：野菜を炒めて味をつけたもの。しょうゆ、みりん。

酢和え：大根、人参

水は山水を洗い物、調理に使っている。飲み水はペットボトル？

吉無田高原で牛を飼っている人もいる。



◎第2 明星学園

授産施設。断水している。物資は足りている。人的支援は職員でないと難しい。今のところはやれている。第1の方が被害がひどかったので、ここに集まっている。おむつが大量に出るということだが、ごみは収集されている。

※御船町は被害はあるが、周辺部にも支援が届いている。大変なのは、益城、西原、南阿蘇ではないか。

◎泉町・栗木 釜炒り茶 船木さん

つくる人が少なくなった釜炒り茶だけをつくっている。工場見学。今後のお茶の振る舞いのために購入。

自分より被害がひどい人がいる、となかなか自分の不安を出せない人たちに向けて、お茶を入れ、話をすることが必要と感じた。